

自立する 中学生の時代



小学校の三年生か四年生位になると、親のいうとおりにしないで自分の思うとおりにしたくなりま
す。例えば自分の服装の好みを言っ

て、あれはいや、これにしてとい
うように主張を多くだすようにな
ります。これは最初に自分という
ものに目ざめたしるしです。五・
六年生になって集団の中でいろい
ろな人につき合い、次第に自分を
見つめるようになって中学生にな
ります。

人間の一生を通しての親友をつ
くれるのは中学生・高校生の時で
す。自分というものがでて、自分
がわかってきて、心を許し合える
友を自分で選ぶからです。友達で
さえあればよいという小学生の時

とちがって、自分がでてきたので
す。これを心理的な成長といえは
よいのです。

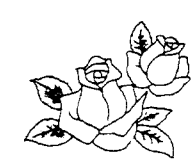
身体の発達とも無関係ではない
のです。身長も体重も中学生の時
にピークを迎えます。勿論男女の
ちがいはありますが第二次性徴も
あらわれてきます。声が変わり、ニ
キビもでてきます。風呂に入った

時自分の体を確かめ、友達と同じ
なら安心し、でない時はどうして
かと悩みます。作文などを書いて
も誇張したポーズをとったり、過
剩感傷がでるのもこの時期です。

つまり「いろけ」がでるのです。
いろけとは人によくみせようとす
る気持ちだと思えます。このよう
に心理的にも身体的にも自分を
つめ自分を確立する時だとい
うこと
です。

中学生の子ども会は難しいとい
います。それは進学の問題など、
自分の将来に係る事が圧力になっ
てくるのが第一の問題です。第
二には発達上の悩みが深くなっ
て個性化がすすみ、自立を考えるか
らです。夏休みのラジオ体操の会
に中学生がでないのもこのような

理由からです。ですから無理矢理
に子ども会に入れようとしても失
敗するのです。そういう中学生を
どう指導するか次回に考えます。
教育のことでお悩みの方は、ぜ
ひ教育相談室へ電話をください。
電話 (43) 1111
内線 214



今月の花「ノイバラ」

六月の花「ノイバラ」

どこにもある花だといっても、
例えば森や林の真中などには生え
ていない。ノイバラが生育するた



めには、ある程度の明るさが必要
なようである。このことが、この
植物が林のヘリなどに多い一つの
理由である。林を開いて畑を作る
時などには、トゲの痛いこの植物
は邪魔物となる。

しかし、この白い花は、よく見
れば美しく、何よりもその香りが
良い。世界中には沢山の
美しいバラの品種がある
が、こうしたバラにもこ
のノバラの系統の遺伝子
が受け継がれていると言
う。またこれらバラの台
木にも使われている。梅
雨の雨上りの明るさの中
に、このノイバラの花を
もう一度よく見てみたい。

小山田越中守信有

平三信有といひ、官位を得て後、
越中守信有といひます。勝山記に
中津森殿と見えるのがこの人です。
中津森殿とは小山田氏の館が中津
森にあったからです。金井
は当時、中津森に属してい
たため桂林寺から用津院
一帯が城跡で、堀や石垣に
今も遺構が明らかです。

前号で触れた信繩信忠兄
弟の武田家総領争いに信忠
を甲斐守護とさせるため信
繩信虎と戦って敗れました
が和睦し、信虎の妹を妻と
したため以後、武田氏の親族衆と
して家運を共にするに至ったその
人です。

武田と同盟を結ぶと過去の怨恨
恩讐を捨てて献身的に信虎に協力
し、大井信達との戦い、栗原、今

小山田シリーズ

小山田越中守信有

井、逸見氏との戦いに再三出動し、
国内統一を果させたのでした。
武田と同盟を結んだことは同時
に北条、今川を敵とすることとな
りました。北条今川連合軍を迎え
ての山中村での戦い、管領上
杉憲房の甲斐侵攻による上野
原や猿橋での戦いなど数々の
戦いに、ある時は武田の一翼
を担い、ある時は総大将とし
て臨んだのでした。戦いのほ
とんどは負け戦で、大月や富
士吉田なども敵の蹂躞するこ
ろとなりましたが、国中へ
の外敵の侵攻を見事に郡内
とどめたのでした。郡内は国中の
防波堤であり、小山田氏は武田氏
の楯となっていたのです。

甲斐が統一され信州攻略がはじ
まると、佐久を転戦また転戦、武
功の高かったことも特筆されると

ころです。
また、信仰心の厚い人で羽根子
長生寺の造営、大月強瀬の全福寺、
葛野川沿いの威徳寺等の再興に
尽くしました。

上暮地の米倉橋や岩殿橋の建造、
猿橋の架け替えなども行っていま
す。

大月の岩殿山に要害城を築いた
のも、また、居館を金井から谷村
に移し城山を要害城として築城に
着手したのも、越中守信有です。
これによって、谷村が城下町と
して栄え、郡内の中心地となる基
となったことはいまでもありま
せん。

天文十年二月病気のため死去、
長生寺に葬られ、諡名を長生寺殿
羽州大守契山存心大禅定門と称し
ます。

※死後の別名で生前の功をたたえて付ける名。